

日本の約束草案（政府原案）に対する意見

氏名

連絡先

自宅住所

電話番号

電子メールアドレス

職業（又は所属団体）

【1】2℃目標の明記と削減目標の引き上げ

〈該当箇所〉：「②日本の約束草案」「④対象ガス及び排出・吸収量」「⑥温室効果ガス削減目標積み上げの基礎となった対策・施策」

〈意見の概要〉：産業革命前からの気温上昇2℃未満目標支持を明記し、基準年は1990年として、温室効果ガス排出量は2020年25%削減、2025年35%削減、2030年50%削減を目標にすべき。森林吸収は除くべき。

〈意見および理由〉：条約会議で確認されている気候変動の悪影響を最小化するための「産業革命前から気温上昇2℃未満」目標を支持することを明記し、日本もそのための分担を行うべきです。2013年度比26%削減といっても1990年度比約18%程度では世界第5位の大規模排出国としての責任を果たすものではありません。基準年は1990年とし、温室効果ガス削減目標は2020年25%削減、2025年35%削減、2030年50%削減を目標とすべきです。また、森林吸収は目標から除くべきです。

【2】原発は使わない

〈該当箇所〉：「②日本の約束草案」「⑤温室効果ガス削減目標積み上げに用いたエネルギーミックス」「⑥温室効果ガス削減目標積み上げの基礎となった対策・施策」

〈意見の概要〉：原発の再稼働は行わず即時ゼロとすべきであり、対策から原発再稼働を削除すべき。

〈意見および理由〉：原発事故は収束の見通しも立たないもと、原発ゼロを求める国民多数の世論を踏まえ、約束草案の対策から原発を削除し、原発ゼロを温暖化政策の出発点・原則に明記すべきです。

【3】省エネ・自然エネルギー目標の設定

〈該当箇所〉：「②日本の約束草案」「④対象ガス及び排出・吸収量」「⑤温室効果ガス削減目標積み上げに用いたエネルギーミックス」「⑥温室効果ガス削減目標積み上げの基礎となった対策・施策」

〈意見の概要〉：省エネ目標を2030年には2010年比35%以上、自然エネルギー目標を2030年には一次エネルギーの30%、電力の45%として設定すべき。

〈意見および理由〉：約束草案のもととしたエネルギーミックス案では省エネと自然エネが不十分です。省エネ・自然エネ対策を抜本的に強化するため約束草案では、省エネ目標は2030年に2010年比35%以上とし、自然エネルギーは2030年に一次エネルギーの30%以上、電力の45%以上を目標にすべきです。

【4】石炭火発の廃止年次目標

〈該当箇所〉：「②日本の約束草案」「④対象ガス及び排出・吸収量」「⑤温室効果ガス削減目標積み上げに用いたエネルギーミックス」「⑥温室効果ガス削減目標積み上げの基礎となった対策・施策」

〈意見の概要〉：脱石炭対策を強化し、2030年には石炭火発をゼロにすることを目標にし、対策から削除すべき。

〈意見および理由〉：温暖化防止と大気汚染防止のために脱石炭を政策原則とすべきであり、エネルギーミックス案で現状維持の2030年26%としていることは論外です。石炭火発の2030年廃止を目標とし、対策からは削除すべきです。